

平成30年度 第1回
学校運営協議会

校長		副校長		教頭	
----	--	-----	--	----	--

開催日時	平成30年 5月17日(木) 18時28分 ~ 20時50分				
場 所	秦野曾屋高等学校 東会議室				
司 会	副校長	記 録	川崎・山本		
欠 席 者	橋本日出夫(秦野市本町地区自治会連合会会長)				

1 開会宣言

開会宣言の後、「神奈川県を学校に設置する学校運営協議会の運営等に関する要綱」により、この会議は公開となり、議事録も公開となることを説明した。

2 委嘱状交付

学校長より委嘱状を各委員へ交付した。

3 学校運営協議会委員及び本校職員の紹介(自己紹介)

学校運営委員

- 小山田 幸 弘 (秦野市立本町中学校長)
- 小 松 昭 一 (秦野市社会福祉協議会事務局長)
- 河 合 豊 (秦野曾屋高等学校長)
- 内 藤 房 薫 (秦野中ロータリークラブ幹事、内藤事務所代表)
- 鳥 海 靖 史 (本校同窓会会長)
- 中 山 恭 司 (一般社団法人 つなぐ未来研究所)
- 三 辻 訓 (学校法人岩崎学園横浜デジタルアーツ専門学校校長)
- 望 月 國 男 (元東海大学教授)
- 諸 星 孝 (秦野曾屋高等学校PTA会長)

事務局 副校長、教頭、事務長、総括教諭、書記

4 校長挨拶

今年度からコミュニティ・スクールの指定校となり、法令に基づき正式な運営協議会として要綱に沿って議事を進めていく。

5 学校運営協議会会長及び副会長選出

会長及び副会長を選出した。

6 協議

(1) 学校の教育計画に関して(校長・副校長)

- ・平成28年度から31年度までの中期的な目標を報告。
- ・ランドデザインをホームページに掲載し、ビジュアル的に見ることが可能

としている。

- ・平成 29 年度学校関係報告書の実施結果を報告。
 - ・平成 30 年度学校評価報告書の目標設定を提案。
 - ・SOYAサプリ（※）では、年度ごとの希望の取り方に変更したので柔軟に対応できるようになった。
 - ・進学に関して、推薦に頼ることなく、行きたいところへ行けるように一般受験の進路指導を目指す。
 - ・コミュニティ・スクールの指定校となったので地域と一層連携していく。
- ※SOYAサプリ…PTAのボランティア組織

(2) 教育課程の編成に関して

- ・福祉教育と英語教育を推進している。
- ・教育課程の変更。3 年生理系に現代文を設定した。2 年次に家庭基礎を全員履修とした。

(3) 学校組織の編成について

- ・本校は 1 学年 7 クラス規模の学校である。教諭は養護教諭を除き全員が学年に所属している。
- ・各学年とも福祉教育に力を入れている。
- ・原則異動の対象の教諭について、次年度へ向け人材確保の必要性がある。

(4) 学校予算の執行に関して

- ・県費予算について、平成 29 年度とほぼ同じである。
- ・全ての県立高校で予算支給が 63 万 6000 円の減額となった。
- ・今年度からコミュニティ・スクール指定校が 26 校から 76 校となった。
- ・新まなびや計画においてトイレの改築の計画があり。本年度本校が指定された。
- ・奨学給付金については昨年度より増額となっている。

(5) 学校施設及び設備等の管理及び整備に関して

- ・生徒棟のトイレの整備が決定し、9 月から 12 月に施工予定である。
- ・校舎の劣化が激しい。雨漏り箇所は 16 箇所あり。雨漏りの改修工事を県に提出済み。卓球場の工事が最優先となっている。

(6) 評価部会及び各種部会に関して

- ・今年度から SOYAサポ事務局が学校運営協議会を担う。
- ・評価部会と各種部会 1 つ以上は必置である。

以上 協議事項 (1) ~ (6) について承認された。

7 報告及び意見交換

(1) Eー提案制度研究成果報告並びに今年度の方向性

- ・平成 27～29 年度の 3 年間にわたり研究した。
 - ・平成 29 年度は 3 本の柱を軸として取組みを行った。
 - ① 学校教育への地域の教育力の活用…曾屋塾、福祉実習、夏季福祉体験
 - ② 学校の教育力の地域への開放・活用…SOYA フェスタ、教育実践の公開、ターキーフェスティバルの公開、学校掲示板の設置
 - ③ 学校の地域化による教育活動の充実…GAP (※)、地域アンケートの実施の予備調査、本調査 (GAP に関しては 3 年前から試行。GAP の実施による自己肯定感の高まりを期待)
- ※GAP…目に見えない心の状態を把握し、自己受容感と他者受容感などを測定するためのツール。

(2) 各グループの取り組み

学習支援G

- ・今年度中に新学習指導要領による教育課程の編成方針を決定、編成作業の検討に着手する。
- ・習熟度別授業として 3 年コミュニケーション英語Ⅲを新たに追加した。
- ・GTEC 実施により「聞く・読む・書く・話す」の英語の 4 技能向上を図っていく。

生徒会支援G

- ・部活動加入率は全体の 7 割弱である。8～9 割に伸びることを目指している。
- ・部活動では、陸上・テニス・バドミントン・山岳が好結果を残している。

生活指導G

- ・今年度も引き続き服装指導・遅刻指導を行う。
- ・問題行動よりも、心の問題を抱えた生徒が増えている。

進路指導G

- ・卒業後の進路の実態は四大に進学する生徒が半数である。
- ・推薦での進学傾向が高い。一般入試の受験でも頑張らせない。

広報特色・情報G

- ・福祉教育への参加を希望する生徒が多い。1 年生の希望が多いが、3 年間参加する生徒もいる。

管理運営G

- ・SOYAサプりに実質 700 名ほどの保護者が登録している。そのうち 50% がサプリ（ボランティア活動）に参加している。

(2) SOYAコミュニティ・スクールアクションプラン（行動計画）2018 について

- ・本校の3つの生徒像・教育目標を掲げ、行動計画を表した、アクションプランを作成した。
- ・教育目標である人格の陶冶、学力の充実、体力の向上を達成するため、「豊かな人間性」「確かな学力」「たくましい心」の育成を目指す。
 - 「豊かな人間性」に関しては挨拶をキーワードとする。
 - 「確かな学力」に関しては主体的な学びをキーワードとする。
 - 「たくましい心」に関しては自己肯定感をキーワードとする。

8 各種報告についての質疑応答・意見

質疑応答

Q：学校目標について、保護者・地域などと協働し、伝統と特色を生かした活動の充実を図るとあるが、具体的にどのような活動に力を入れるのか。

A：今まで地域と連携して活動をしてきたダンスや曾屋塾、福祉などは今まで通り行う。また、現在新たな取組みとして『寺子屋』を考えている。児童生徒が立ち寄って生徒が子どもらと対話をしたり、地域と交流していくような場になるとよいと考えている。

意見

8月に本町公民館でイベントを行う。本町地区の小学生を呼び、曾屋高生徒にダンスの指導をして欲しい。

パレットという施設を使用し、居場所づくりを展開していく。曾屋高生徒と地域の子どもと触れ合う世代交流をしていきたい。

曾屋は福祉に力をいれている。伝統と教育を生かした『寺子屋』は新しい活動である。伸ばしていくべきである。最大限に協力していきたい。

意見

曾屋高は地域の連携ができている。こういう目的でこういう活動ができているんだという実感がある。8月6日に第1回「寺子屋」を計画している。学校としてどう連携していくのか、どう開かれた学校を作るのかをしっかりと考えるべき。また、地区のお祭りに生徒を参加させるため、あれもこれも取り入れてでは先生も大変。ガイドラインをしっかりと作るべき。先生方のワークバランスは保たなくてははいけない。

このようなイベント等の保護者宛通知には、運営協議会の会長の名前で時には出すことも大切である。普段は校長の名前で通知を出していると思うけれど、校長だけでなく会長の名前で出すことも必要だと考える。

質疑応答

Q：現在2年生で家庭科の4単位の科目の方を履修している生徒はどれくらいいるのか。

A：今年の2年生は1クラス分くらいの生徒が選択。この科目を履修する生徒はある程度進路が決まっている。食に関する方面の専門学校に進む生徒もいる。

Q：ボランティア活動についてももう少し具体的に教えていただきたい。

A：年間 35 時間（1 単位）として計画している。1 学年では1 単位まで。加算方式にしている。

Q：進学率について、文系理系それぞれどうなっているか。

A：卒業した 29 期生生徒の進路先データでは、45 パーセントが四大へ進学している。他に、短大が 11 パーセント、専門学校が 32 パーセント、就職が 4 パーセントとなっている。それ以外の生徒は進学準備である。29 期生の約 40 パーセント（約 120 名）が理系であり、理系のほうが進学意欲は高いという統計がでている。

意見

曾屋高校は福祉を推進している。夏休みの福祉体験活動に参加することで自己肯定感が高まる。曾屋高校の福祉は伝統の形で位置づけられている。この活動は経験主義でもあり系統主義でもあるのが大切である。曾屋の福祉をどうアピールするかが重要。何を実践しているのかをもっとアピールするべきである。子供を呼び込めるように、具体を伝える手立てを考えてもらいたい。その他、自己肯定感が低くて頑張っている子が心配だ。

意見

社会福祉法人として文化祭時にブースを設けて福祉をアピールしたい。学校の文化祭の日を教えてもらえれば、市内の事業者の集まりで参加したい。また、総合的な学習の時間に体育館に生徒を集めガイダンスを行う。ロールプレイングとして実際の関係者を招くという手立てがよいと考える。その他、実際に地域に出ていく活動を行う。このような手立てにより、子供も親に活動について話せる。

地域での交流が現在できていない。福祉という視点で「子供たちができるこ

とは何か」を考え、取り入れて自発的に参加していけるようにする。交流を通して子供たちのスキルを上げていく。地域へどのように活動していくのかを考えていくべき。曾屋の子にしてもらったこと、挨拶してくれたこと、等で生活の励みになってもらえることを考える。するとそう感じた人がどんどん発信してくれることを期待する。

意見

この学校は福祉の受容性がある。組織運営をしていくためにも、福祉の人材配置をお願いしたい。

意見

県費が年度当初半分しかもらえないことができないことは問題である。29年度最終的に残ったお金を戻したら、学校側が返し過ぎているということで減らされた。教育委員会の責任で、学校側には関係ない。教育委員会に物申していいと思う。

意見

保護者の皆様方にはPTA総会で予算の承認をいただいている。今後の予算、費用の分配に関して協議会の中で活用できる方法に関してこの場でまた検討できればと考える。

意見

施設の老朽化について、保護者からしたら子どもに起こる危険性が高いことが最も怖い。優先的に予算をつけて欲しい。交渉をお願いしたい。

意見

アクションプランがとてもわかりやすい。うまくアピールしてほしい。福祉について何かもう少しわかりやすく具体的なものが入っているといいと思う。

意見

異年齢の交流活動を中学校は積極的に取り入れてきている。思いやりの心、問題行動の未然防止について、「福祉教育」と結びつけながら行うとどういう展開があるのか期待したい。ポイントとしてどんな活動があるのかを明確に明示しなければ、参加募集しても集まらないのが中学校である。そして、目先のものに振り回される人は多い。曾屋高は「いろいろな取り組みをやるなかで、将来の目標のところにいけるのか」を明確にし、バランスよく活動していけるといいと思う。また、活動についても中学校にアピールしないと中学生は来ないだろうと考える。

意見

他の学校はこんなに具体的な内容ではない。中でも、「一人一ボランティア」について。この明確な明示は大きな可能性がある。この学校の教育実践をわかりやすく伝えていくべき。

目標である「豊かな人間性」について、こんな人間を育てていくというビジョンを明確にしていくべきである。また、できるだけアクションプランはホームページに載せていくべきだ。

質問意見

Q：この運営協議会開催日時に関しても、教員の都合のいい日で合わせるべきだと思う。こんなに夜遅くなってしまうのはいかなものか。

A：夜や休日の半日が調整しやすいと思うが、日程等について今後また連絡させていただく。

9 閉会挨拶

今後の予定

- 第二回学校運営協議会（中間報告） 10月中旬
- 第三回学校運営協議会（PTA運営委員会開催日の午後）12月15日（土）
- 第四回学校運営協議会（年度報告・評価） 3月上旬